

第1回白山市教育委員会会議録

1 日 時 令和4年2月24日（木）午後4時

2 場 所 白山市役所本庁舎4階 402会議室

3 出席者

教育長	田村 敏和
教育長職務代理者	北田 朋幸
教育委員	竹内千恵子
教育委員	小寺 正彦
教育委員	尾張 勝也

欠席者

教育委員	安川 薫
------	------

4 事務局

教育部長	山内 満弘
教育総務課長	米木 伸一
学校教育課長	東野 央
学校指導課長	日向 正志
生涯学習課長	北嶋 篤
子ども相談室長	川上 照子
松任図書館長兼総務課長	中村 泰広
松任図書館図書サービス課長	大小田 義仁

書記職

教育総務課課長補佐	杉本 俊彦
-----------	-------

5 傍聴人 なし

6 案件

議案第1号	令和3年度白山市一般会計補正予算（教育費）について
議案第2号	令和4年度白山市一般会計予算（教育費）について
議案第3号	白山市防災コミュニティセンター条例の一部を改正する条例について
議案第4号	白山市立公民館条例の一部を改正する条例について

7 議事の経過等 以下のとおり

田村教育長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として小寺委員を指名した。
諸般の報告について、教育部長より教育長が出席した行事の主な概要について報告した。

■主な行事の概要（前回11月25日の教育委員会以降の報告）

- ・ 11月26日（金） 文部科学大臣表彰受賞報告（特別応接室）
いしかわ道德教育推進事業研究発表会（光野中学校）
- ・ 11月27日（土） 第49回千代女少年少女全国俳句大会表彰式
（千代女の里俳句館）
- ・ 11月28日（日） 白山ふるさと文学賞贈呈式（グランドホテル白山）
- ・ 11月29日（月） 校長会議（402会議室）
- ・ 11月29日～12月17日 令和3年市議会11月会議
12月 8日～9日 一般質問
教育委員会への質問は 8議員から14件
- ・ 12月11日（土） 白山市PTA大会（松任文化会館ピーノ）
- ・ 12月16日（木） 叙勲伝達式（特別応接室）
- ・ 12月22日（水） 新任ALT市長表敬訪問（特別応接室）
- ・ 1月 6日（木） 校長会議（402会議室）
- ・ 1月 9日（日） 白山市成人式（市内7会場）
- ・ 1月11日（火） 第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会
第1回総務部会（402会議室）
- ・ 1月19日（水） 寄附感謝状贈呈式（特別応接室）
- ・ 1月26日（水） 令和4年市議会1月会議
- ・ 1月27日（木） 教育委員会協議会（402会議室）
- ・ 2月 2日（水） 校長会議（402会議室）
- ・ 2月 3日（木） 学校衛生委員会（402会議室）
- ・ 2月 4日（金） 寄附品贈呈式（教育長室）
- ・ 2月10日（木） 白山市・野々市市保健衛生、学校保健に係る懇談会
（グランドホテル白山）

本日の議題に入り、議案第1号、議案第2号、議案第3号、議案第4号について、質疑・応答が行われ、原案どおり承認し閉会した。

【案件の説明および諸報告について】

案件について、事務局より説明・報告し、原案通り承認された。

【主な質疑・応答の内容について】

○令和4年度白山市一般会計予算（教育費）について

（尾張委員）

感性のびのび事業というものがありますが、合宿やスキー遠足にはどれくらいの予算が

かかっているのか、また市の補助というのは、どれくらい、どんなかたちで行われているかということが一つと、市内の子どもたちのスキーのシーズン券や1日券が安く買えていたと思いますが、それは今も行われているのか、財源は教育委員会からか、どこから出ているのかご回答をお願いできないでしょうか。

(日向学校指導課長)

スクールバス、それから合宿につきましては、来年度、三方岩に行くことができるように今回、配当しております。また、スキー遠足等に関しましても、ここに見えていない部分がありますが、入っております。

(尾張委員)

感性のびのびとうたってはいないけれども、バスの分はこのどこかの中に入っているということですね。

(日向学校指導課長)

来年度の事業等にかからめて、見直しをしながら、枠組みを変えた部分があります。

(尾張委員)

スキー遠足については、市からの補助の項目はどうなっていますか。

(日向学校指導課長)

リフト代とバス代になります。

(尾張委員)

講師の謝金などを学校で用意していると思いますが、それは学校持ちということですか。

(日向学校指導課長)

講師の保険を見ております。

(尾張委員)

1人あたりいくらで、〇〇人来たからということで渡しているのか、それとも最初から〇〇円以内でお願いというかたちですか。

(日向学校指導課長)

〇〇人でということですが、ただ、多くが保護者の方が来られていたりということもございますので、その部分に関しましては、特にということにはなっています。

(尾張委員)

正式な講師派遣については謝金を出しているけれど、保護者がお手伝いに来ることについては、学校の方でしているということですね。子どものシーズン券については、市としてはどこからお金が出ていますか。

(山内教育部長)

観光文化スポーツ部で、7款2項3目のスキー場事務費の中に、市内小中学生特別シーズン券購入補助金として、400万円が予算化されています。

(尾張委員)

学校のスキー遠足については、スキーの事を知っている先生があまりいなくて、スキーの事を知らない人が計画をして、業者と段取りをして、実際、業者の方から苦情をいただくことがあります。そういう状況の中で、スキー遠足の存続の是非も考えないといけないのですが、私は白山市を代表する大事な活動だと思っていますので、学校にお金だけを出して丸投げということではなく、「感性のびのび」という冠がついている、ついていないも含めてですが、市の事業としてやってくださいということであれば、もう少し学校がやりやすいような、お金も含めてサポートをしないと、学校では、もうスキー遠足をやめようという声が出てくると思っています。できれば、学校がどういうかたちで、どういう予算でスキー遠足をやっているかということの調査をしていただきたい。予算がどれだけで、保護者を何人呼んで、レンタル業者がどこで、いくらかかっているか、学校間格差がかなりあるかもしれないので、そのあたりの道筋を示してあげないと、学校はどんどん困って、やめようという方向に行っている気がしていて、それを危惧しています。現状、実態調査をしてほしいということが一点。もう一つは、ここで言うことではないかもしれませんが、子どものシーズン券等についての補助はあって安くなるのですが、学校の先生方から、先生方の補助はないのかという声もいくつか聞きました。先生方がたくさんスキーをすることで、子どもたちにもスキーの楽しさを伝えられるということもあるし、スキー遠足の安全をちゃんと自分たちで管理できるということもあるので、先生方がスキーがしやすいような環境を、シーズン券の補助等でもいいのですが、市としても何か考えていただきたいという意見です。

(日向学校指導課長)

今の尾張委員のご意見に関しましては、小学校の校長会と少し相談をしながら動いている状況です。校長会で気にされていることとして、このままスキーを継続していくことができるのかというようなこと、特に、先生方の中には、スキーよりもスノーボードの方がよりできるという方が多くなってきているという現状もありますので、はたしてスキーをそのまま続けることがいいのかどうなのか等も含めて、今おっしゃられたように、現状がどのような状況になっているのか、少し確認して整理しながら、来年度の実施に取り組みたいと考えております。

(尾張委員)

今の件について、私見になりますけれども、スキーはやはり昔から日本に伝わる、文化的な部分、生活に密着した部分がすごくあって、私の感覚ではスノーボードはレジャーなんです。学校でレジャーをする必要は私はないと思っていて、スキーとスノーボードはいくらウィンタースポーツといっても、発祥も含めていろいろ違うと思っています。あと、みなさんによく知っておいていただきたいのは、ボードは圧倒的にけがの確率が高いです。レンタル業者の方と話をしている、やはり子どもにボードは危なくてさせられないと言っている現状があります。ボードを60歳、70歳になってやる人はすごく少ない。でもスキーは80歳、90歳でもやっている人がいる。私はスキーをしているので、こう言っているのかもしれないけれども、生涯スポーツとしてもボードとは違う。ボードをする時には慎重にしていadakないと、ただ遊びに行くのにこんなにお金を使っているのかとならないようにしていただきたいと思っています。

(北田教育長職務代理者)

スノーボードは本当に危なくて、子どもがする時には絶対ヘルメットを着用しないとけない。私は長年スキーをしていて、ボードもしましたが、普通のゲレンデでボードでは死ぬ人がいる。広いところでも、子どもの場合、後ろに転ぶとボードではまともに頭を打ってしまうので怖い。安全性を考えると、やはりスキーの方がまだよくて、先生がいくらスノーボードをやっている、子どもにスキーを教えるのに、やはりスキーをしてもらわないと困る。ボードができる人なら、しっかり習えばスキーも上手になるはずなので、できればスキーでお願いしたいと思います。

(山内教育部長)

2つ目のスキーシーズン券を学校の先生を対象に補助できないかということですが、尾張委員の言われることはもっともですが、スキー場も経営ということがありますので、申し出はしてみたいと思います。

(北田教育長職務代理者)

33ページの青少年教育費なのですが、2番の青少年団体育成事業の中で、子ども会連合会補助金だけが突出して大きいです。かなりの金額ですが、どういう使われ方をしているのか、調べていただきたい。ほかは50万とか、30万、40万でやってもらっているが、そこだけ金額的にかなり大きいのですが、これが有効に使われているかどうか、子ども会もだんだんと少人数化しているはずなのに、これだけの金額をどのように使っていらっしゃるのか、白山市のPTAの補助金も85万円しか出していないし、100万を超える金額は、きちんと使われているかどうか。本当に必要として220万を使っていらっしゃるかどうかしっかり調べていただいて、あまり子ども会連合会の活動で大々的なものは耳にしないので、もし減額できるのならするべきだし、一度調べていただいてよろしいですか。

(北嶋生涯学習課長)

今わかっているところでは、松任、美川、鶴来、白山麓に補助金が分けられているということなのですが、松任ではその中でたくさんの子ども会が存在してしまっていて、97万円ほど交付しています。美川は30万円、鶴来は40万円となっていて、活動報告の収支をみたのですが、各地域において活動せずにもらっているというところはなかったです。

(北田教育長職務代理者)

活動はしているのだろうけれども、どういう使い方をされているか、あまりにも大きいので。

(北嶋生涯学習課長)

わかりました。

(小寺委員)

公民館の防災倉庫建設事業ですが、令和4年度が初めての新規事業だと思いますが、28公民館を何年かかってするのかを教えてくださいたいのと、令和4年度の4館は、どこの公民館からスタートするのか教えてくださいたいと思います。

(北嶋生涯学習課長)

まず、28公民館の全部に設置を予定しているのですが、すでに湊防災コミュニティセンターや、宮保・笠間の防災コミュニティセンターは防災倉庫が中に入っているかたちになっていますので、それ以外で中期計画であげているのが、18公民館になります。今年は、予定では旭、蝶屋、鳥越、出城ですが、鳥越と出城は、ほかの事業もありますので、変更する可能性があります。中期計画の予定は、令和7年までで、1年あたり4館または5館になります。市民サービスセンターと併設しているところは、今後、検討していくこととしています。

(小寺委員)

18公民館に令和7年度までに建設するというので、わかりました。

(尾張委員)

生涯学習というのは、学校教育、社会教育も含めた一番大きなものと習ってきました。ただ、残念ながら、そういいながらも、生涯教育＝社会教育みたいになってしまって、学校教育に比べて、ものすごく小さくなってしまっているような印象が私にはあって、非常にさみしいと思っています。何を言いたいかというと、この予算にも、学校教育にはSDGsということで、特別に振興事業ということで項目がありますが、本来、生涯学習にもそういう項目があってほしいと思います。例えば、33ページの青少年の野外教育推進事業のところは、白山登山にお金をだす、体験プログラムの参加費を助成する。昔は、生涯学習課が、私を

含めて、団体とつながってイベントをしていました。それが外にお願いするようなかたちになっていると思います。今の生涯学習課の人数では無理かと思いますが、本来、野外教育というのは、学校教育だけではなくて、生涯学習、社会教育の一環としてもっともっとでてくるべきではないか。コロナ禍で大変だと思いますが、生涯学習課が、ジオパークも含めて、SDGsに関する事業ということで、子どもたちに自然体験活動を提供する等、起案して、事業費を予算化する動きが今後あったらうれしいという意見です。

(北嶋生涯学習課長)

ありがとうございます。SDGs に関しては、行っている事業の中で、目的を持って、関連づけています。特化してSDGs という事業はつくってはないのですが、なるべく前面に出しながらやっていきたいと思ひますし、ジオに関して言ひますと、33ページの感性のびのびジオサタデー事業で、関係課と連携しながら体験事業を実施しています。確かに、大きな事業がないというのも事実だと思いますので、ご意見を参考にさせていただきます。

(尾張委員)

せっかくやっていることなので、それが表にでてくるようなかたちで、白山市はみんなで取り組んでいるんだという機運や気風を高めることができたらと思ひます。

(北嶋生涯学習課長)

ありがとうございます。

(竹内委員)

行事というのはスクラップ&ビルドで、新しいものを入れるときは、古いものを見直してやっていただきたい。市役所の人数もかなり減ったということをおもも聞いておりますから、みなさんたいへんな思ひをされているのだろうし、予算もたくさんとれる訳ではないので、新しくジオが入ったから、ジオの事業を新規にやるときには、今までの何かを見直す。行政というのは、理由がきちんとしていないと、毎年やっていたことをやめるのは難しいということは分かるのですが、事務局の方も、スクラップ&ビルドをしていかないと、非常に負担になるのではないかと思ひます。先ほどのスキーのお話も、教員がみんなスキーができないとスキー教室ができないというようなお話は、先生方の勤務から言えば非常に過酷ではないでしょうか。極端に言えば、5年生の担任はスキーができる人というような、そんな話になってしまうので、子どもたちの安全・安心が第一ですから、お金をかけてでも、外部の方にお願ひできるものはきちんとお願ひをして、本市として残すものは残したほうが良いと思ひますし、教員も全員スキーをやりなさいと言われたら、私だったら困るなというのが正直な感想です。